WEP

VOL. 117
ウエップ
俳句通信

俳句通信

特別作品25句　角川春樹「父の時間」

特集〈結社誌・同人誌編集長 20句競詠〉

伊藤修文（青岬）
大岡蒼一（ひまわり）
小笠原　至（秋）
岡田順子（花鳥）
小川もも子（円座）
金谷洋次（秀）
木内憲子（栞）
田口風子（若竹）
辻　美奈子（沖）
寺澤一雄（鏡）
中牧　修（今日の花）
堀之内長一（海原）
本城佐和（青海波）
間島あきら（風土）
渡辺誠一郎（小熊座）

【円熟作家12句】
松林朝蒼
吉岡桂六
松浦加古
熊田俠郵

【30句競詠】
坪内稔典・稲畑廣太郎

●作品●下鉢清子・加藤耕子・落合水尾・大石悦子・須原和男・塩野谷　仁・山口昭男・村上鞆彦・奥名春江・古賀雪江・古田紀一・澤井洋子・河村正浩・大関靖博・辻　恵美子・島井保和・大島雄作・飯田　晴・白濱一羊ほか

越後・山古志の初秋

新潟県長岡市山古志

写真 樋口一成

コスモスの花あそびゐる虚空かな　高浜虚子

コスモスと赤鬼

釣り場へは未明から車を運転して向かうが、ある日蛇行して居眠り運転をしている釣友を発見。彼はガソリンスタンドに勤めていて、午前二時頃に仕事を終えてそのまま釣りに行くのだ。以降、私の車に同乗して釣りに行く事になった。風貌は赤鬼に近いが心優しい無口な男で車中では殆ど会話は無く爆睡する。

釣りを始めて一時間、私は今か今かと竿を振り、浮子を眺めている。気が付くと赤鬼が居ない。後ろの草叢を押し倒して大の字になっている。やおら起き上がり竿を振るとすぐ釣れる。何時ものパターンで何ともいまいましいが日に何度も繰り返す。

私も寝不足の日、真似をした。やっぱり釣れる。以来、あくせく釣りをしない事にした。お陰で私の釣りの楽しみ方が随分変った。

それにしてもコスモスを踏み倒した赤鬼のような顔はどう見ても似合わない。

絵・文　杉原武弘

父の時間

角川春樹

人と逢ひ人と別れて青しぐれ

モヒートにジャズの昏れゆく祭かな

筍飯水に祇園の灯の入りぬ

それよりの水にこゑある柿の花

悼 大林宣彦監督

時の日の君なきシネマの椅子にゐる

父の日のいつかは帰る日暮の樹

特集

結社誌 同人誌 編集長 20句競詠

俳句結社誌、同人誌編集長の20句競詠です。
今回は15人の編集長に参加していただきました。

伊藤 修文(青岬)	金谷 洋次(秀)	中牧　修(今日の花)
大岡 蒼一(ひまわり)	木内 憲子(栞)	堀之内 長一(海原)
小笠原　至(秋)	田口 風子(若竹)	本城 佐和(青海波)
岡田 順子(花鳥)	辻　美奈子(沖)	間島 あきら(風土)
小川 もも子(円座)	寺澤 一雄(鏡)	渡辺 誠一郎(小熊座)

それなりに

伊藤 修文
（青岬）

それなりに筋を通せば蜷の道
大口を開けてはんざきなほ無口
この顔はきつとぶれない蟇蛙
闇の世に怯えを知らぬ初蛍
あくがれて夏蝶海に出たつきり
老残に来しががんぼや打たずおく
でこぼこな国の凹には梅雨出水
慈悲説きし母の遺愛の蠅叩
人舐めしなめくぢ塩にとけてゆく

いとう・しゅうぶん
昭和23年（1948）7月21日・岩手県生まれ
大牧広に師事　「港」編集長
「港」終刊により「青岬」創刊に参加・編集長